



東京でオリンピックが見たい!

7月27日から8月12日まで開催されたロンドンオリンピックでは、様々なドラマや感動が生まれました。正直開幕前までは、遠いヨーロッパでの開催ということもあってか、今ひとつピンと来ない部分もありました。しかしいざ始まってメダル獲得のニュースなどが聞こえて来ると、やはり試合が気になり、寝不足の日々を過ごしておりました。

それにしても、どうしてオリンピックというのは、選手たちの一挙手一投足にあんなに感動してしまうのでしょうか？

考えてみるに、4年に一度多くの競技が一か所で行われる「非日常性」をはじめ、トップクラスが頂点を競い合う「レベルの高さ」、そして世界中が注目するスター達の集う「華やかさ」といったものが、やはり桁違いの感動を生み出すのではないかと思います。

私は1964年、東京オリンピックの開催年に生まれ、それ以降日本では1972年の札幌、1998年の長野オリンピックが開催されています。札幌までは残念ながら記憶がほとんど残っていないものの、1998年の長野オリンピックでは、友人と会場付近まで出掛けて行ったことがありました。といっても、競技を見るためではありません。長野で「オリンピックの雰囲気を味わう」ため、出掛けてしまったのです。

長野では、まず駅周辺の装飾や国際色溢れる乗降客たちに、早速胸をワクワクさせる私たち。会場周辺の道路では、あちらこちらで小さなコミュニティのようなものができ、路上パフォーマンスのようなことをする外国人もいれば、オリンピックのピンバッジ交換会をしている人々などが、それぞれ盛り上がりを見せています。当時はまだインター

ネットもあまり普及していなかったこともあってか、そうした直接的な交流を楽しむ人が多かったのかもしれませんが。

私も、自分で用意して来たピンバッジを交換してもらったりしながら楽しんでいると、どうやらその日に行われたジャンプで日本が金メダルを獲得したらしく、スポーツ紙の号外が配られていました。そうした様々な配布物を見ているだけでも楽しく、結局競技を見ることもないまま帰路についたのですが、気持ち的には大満足の長野訪問となったのでした。

今、JOCでは2020年の東京オリンピック招致に向けて、本格的な活動を始めています。開催が決定すれば夏は56年ぶりとなり、大きな盛り上がりを見せるでしょう。もし試合を見られなくても、様々なシチュエーションを楽しむことができるに違いありませんし、私個人としては、趣味で勉強している英会話の成果が出せるかもしれないな、などとワクワクして来ます。今回のロンドンでは、交通網の整備によって逆に市街地に観光客が集まらない…といった結果になってしまったようですが、そうしたことも十分参考にして、ぜひ素晴らしいオリンピックが開催できるといいな、と願っています。

